

放射能漏れ事故発生

日本では、起こらないはずの事故が起こってしまいました。東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故です。

その後、私たちの生活を一変させる事故はなぜ起きたのでしょうか。



福島第一原発に押し寄せる津波（東京電力提供）

津波の襲来

福島第一原子力発電所は、地震により安全を確保するための仕組みが作動し、緊急停止したといわれています。

また、地震により鉄塔が倒れるなどして福島第一原発への送電が停止し、東北電力からの予備送電もケーブルの不具合のため受電することができず、全ての外部電源を喪失しました。その後、3月11日午後3時27分頃に津波の第一波が押し寄せ、その後も断続的に津波が押し寄せ、敷地内は浸水しました。これにより、全電源を奪われ、原子炉を冷却するための仕組みがなくなってしまいました。



施設内道路の被害



地震により敷地内も被害を受けた

施設内の被害



建屋内の被害



爆発前の4号機の様子

■事故発生まで

3月11日	20時50分頃	福島県が2km圏内の住民に避難を呼びかける
	21時23分	政府が避難区域を3km圏内に広げる
	21時50分	1号機原子炉建屋の放射線レベルが上昇
3月12日	5時14分	避難区域が10kmに拡大
	15時36分	1号機原子炉建屋が水素ガス爆発
	18時25分	避難区域が20kmに拡大
	19時04分	1号機へ消防自動車による海水注入開始
3月13日	8時41分	3号機のベントに成功、格納容器の圧力が低下する
3月14日	11時01分	3号機原子炉建屋が水素ガス爆発
	16時30分	3号機原子炉への海水注入開始
3月15日	6時00分頃	4号機原子炉建屋が水素ガス爆発
	7時20分～11時25分の間	2号機格納容器が破損

※2号機原子炉建屋は爆発を免れた。しかし、福島第一原発から放出された放射能のうち、2号機原子炉からの放出量がかなりの部分を占めているという。



（上4枚の写真は、いずれも東京電力提供）

写真左上：事故後の1号機から4号機の様子。手前の1号機は水素爆発で建屋上部が吹き飛び鉄骨がむき出しに。（平成23年3月16日撮影）

写真右上：3号機を上空から撮影したもの。白煙が立ち上っている。（平成23年3月16日撮影）

写真左下：4号機、注水車から放水している様子。（平成23年3月22日撮影）

写真右下：3号機の中央制御室の様子。（平成23年3月23日撮影）

■なぜ事故は起きたか？

東京電力福島原子力発電所事故調査委員会（国会事故調）の報告書によると、事故の直接的原因は、地震および津波という自然現象ですが、「安全上重要な機器の地震による損傷はないとは確定的に言えない」とし、事前に安全対策を意図的に構じなかった東京電力とそれを黙認してきた規制当局である保安院について、その関係が逆転していたことによる「監視・監督機能の崩壊」のためのあきらかな「人災」であることを報告しています。

また、国会事故調は「事故の進展、または被害を最小化できなかった」最大の原因は「官邸、規制当局を含めた危機管理体制が機能せず、緊急時対応において事業者の責任、政府の責任の境界が曖昧であった」ことをあげています。

文部科学省による福島県西部の航空機モニタリングの測定結果について
(福島県内の地表面から1m高さの空間線量率)

